

You,
Unlimited



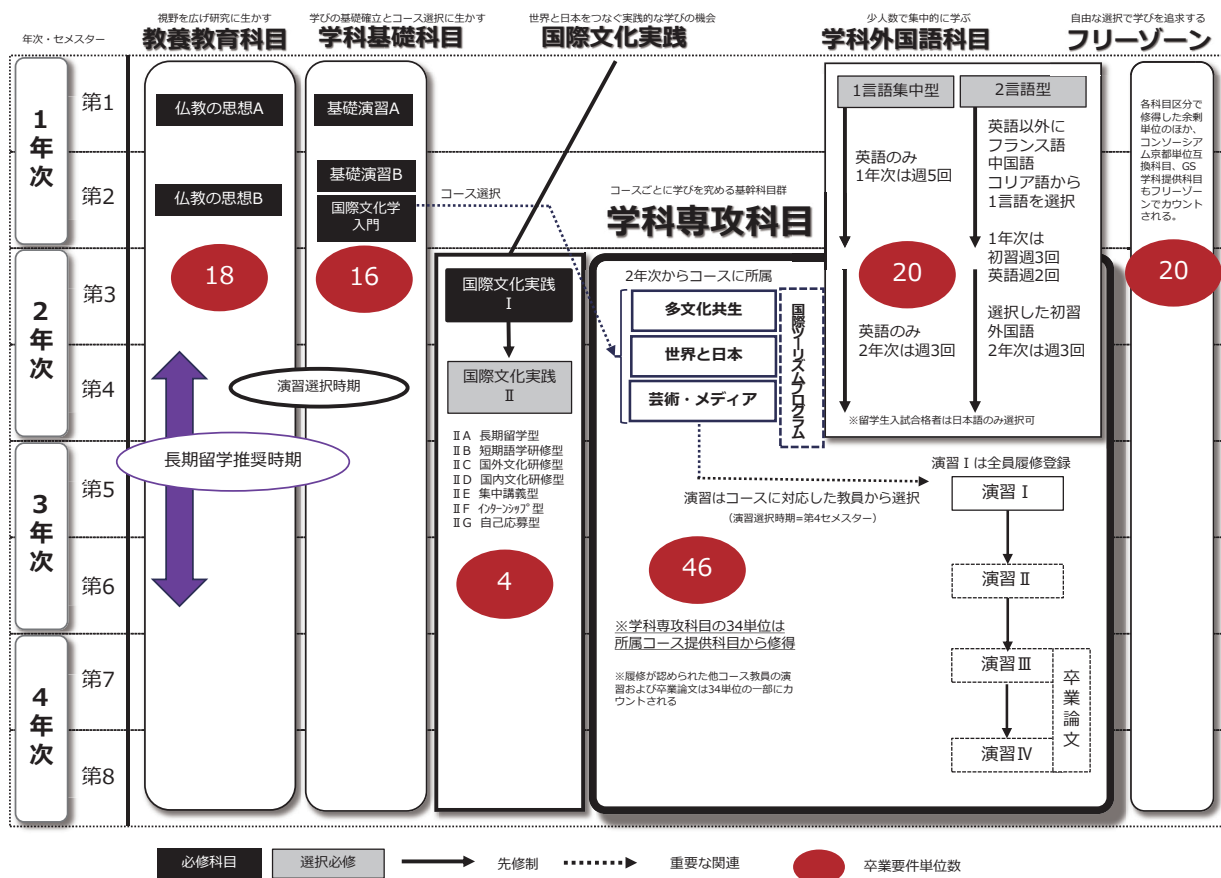
龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY

コース・教員紹介

国際学部 国際文化学科

Faculty of International Studies

国際文化学科 教育課程および卒業要件



国際文化学科では、下表の科目区分ならびに卒業要件単位にもとづき、卒業までに合計で124単位以上を修得することが求められます。ただし、124単位以上を修得しても、科目区分ごとに定められた卒業要件単位を満たしていない場合、あるいは、必修科目を修得していない場合は卒業できません。

自身の単位取得状況は成績表等で常に確認し、計画的な履修を心がけるようにしてください。不明な点や不安な点があれば、必ず国際学部教務課で確認するようにしてください。

科目区分	卒業要件単位	備考
①学科外国語科目	20単位以上	1年次：英語週5回または初修外国語週3回+英語週2回 2年次：英語週3回または初修外国語週3回
②教養教育科目	18単位以上	必修4単位(「仏教の思想A」、「仏教の思想B」、「国際文化学入門」)を含む
③学科基礎科目	16単位以上	必修6単位(「基礎演習A」、「基礎演習B」)を含む
④学科専攻科目	46単位以上	(「演習I」～「演習IV」、「卒業論文」を含む)
⑤国際文化実践プログラム	4単位以上	必修4単位(「国際文化実践 I、II」)を含む
⑥フリーゾーン	20単位以上	グローバルスタディーズ学科からの提供科目を含む
合計	124単位以上	

CONTENTS

はじめに	4
コース制とコース選択について	5
履修可能な科目について	6

多文化共生コース

コース概要および履修モデル	8
コースが提供する科目	9
〔教員紹介〕	
磯江 源	10
佐野東生	11
壽崎かすみ	12
鈴木 滋	13
Noel Mitchell Terhune	14
林 則仁	15
久松英二	16
二葉晃文	17
古川秀夫	18

世界と日本コース

コース概要および履修モデル	20
コースが提供する科目	21
〔教員紹介〕	
泉 文明	22
Maria Reinaruth D. Carlos	23
史 形嵐	24
徐 光輝	25
嵩 満也	26
デブナール ミロシュ	27
友永雄吾	28
朴 炫国	29
三谷真澄	30
劉 虹	31

芸術・メディアコース

コース概要および履修モデル	33
コースが提供する科目	34
〔教員紹介〕	
Sylvain Cardonnel	35
澤西祐典	36
Jonah Salz	37
杉本 バウエンス ジェシカ	38
Michael Furmanovsky	39
松居竜五	40
八幡耕一	41

(その他)

コース共通の専攻科目について	43
演習とコース選択について	44
国際文化実践プログラムについて	45
想定する進路について	47

はじめに

国際文化学科（フランス語でDépartement de communication interculturelleという）は3つのコースに枝分れしています。

各コースはそれぞれ固有の視点から、異文化教養・異文化理解の修得という共通の目的を目指します。“文化の様々な側面を学び、異文化間の対話や交流の可能性を追究”するのが「多文化共生コース」、 “世界を学び、日本を知ること、多面的な文化理解を志向する”のが「世界と日本コース」、そして、“表現形式・手段としての芸術およびメディアの視点から文化を分析する”のが「芸術・メディアコース」です。

本学科は多様化する国際社会の中で、自らの属する文化を理解し、異なる文化を受け入れて尊重し、寛容な人格をそなえた人材を育成します。さらに、自分の発信力、表現力を高めることも目指します。また、国際文化学科の一つのキーワードは“コミュニケーション”であり、3コースのアプローチは異なっても、これを重視する点では同じです。

本学科が推奨する留学は、国際コミュニケーション体験の機会ではありますが、留学以前の国際文化学科の日常がすでに国際コミュニケーションの場なのです。皆さんがこのブックレットのページをめくりながら気づくのは学科専任教員の半数近くが外国出身であるということです（中国、韓国、フィリピン、アメリカ、スロヴァキア、フランス、ベルギー、イギリス）。日本のパスポートを所有する教員の多くも豊かな留学経験を持っています（イギリス、ドイツ、フランス、オーストラリア、アフリカ、イラン、インド、スリランカ、台湾、韓国、アメリカ、など）。そのような意味で、本学科は不確実な時代に必要とされるグローバルな視野を獲得できる環境にあると確信してください。

文化とは何か。他者とは何か。意義のある文化交流とは何か。体験的な学びを通じて自分を見つめ、異なる価値観を発見し、新たな考えを身につけていきましょう。このコース・教員紹介Bookをじっくり読み、自分にあうコースを考えてください。

国際文化学科主任

Sylvain Cardonnel
シルヴァン カルドネル



コース制とコース選択について

国際文化学科の学生は、2年次からいずれかのコースに所属し、各コースが提供する専攻科目を中心に学びを究めていきます。同時に、各コースが想定する進路を含めて、自身のキャリア設計を実現していくスタート地点に立つことになります。

国際文化学科がコース制を採用する意義は、概ね以下のようにまとめることができます。

まず、コースを選択することで、抽象度の高い『国際文化学』を「どのようなアプローチから学ぶか」が明確になります。すなわち、①文化の様々な側面を学び、異文化間の対話や交流の可能性を追求する（多文化共生コース）のか、②「世界を学び、日本を知る」ことで、多面的な文化理解を目指す（世界と日本コース）のか、あるいは③表現形式としての芸術、情報伝達手段としてのメディアという観点から、文化を分析しようとする（芸術・メディアコース）のか、ということが明確になる利点が挙げられます。

また、学科での学びの基幹となる『学科専攻科目』に関して、「46単位のうち34単位は所属コース提供科目から履修する」というルールがあるため、関連する科目を体系的かつ効果的に学ぶことが可能になります。これは皆さん自身の専門性を高めることにつながります。

さらに、各コースではコースでの学びを活かしやすい進路を具体的に挙げています。学びのアプローチを明確にし、体系的に学びを深めることで、「夢」や「憧れ」であった職業に就くことが現実味を帯びてきます（もちろん、自身が望むキャリアを獲得するためには、課外活動も含めて能動性や主体性が求められ、絶え間ない自己研鑽が必要です）。

なお、国際文化学科では、所属するコースと演習（ゼミ）が強く関連付けられています（演習とコースの関係については本冊子p.44を参照）。それゆえコースの選択は、「(大学生活の総仕上げである)卒業論文を通じて何を究めるか」とも密接に関係してきます。

以上を踏まえると、充実した大学生活を送る上で、コース選択は皆さんが考える以上に重要な契機であると言えます。「国際文化学入門」の講義と併せて本書を熟読し、卒業後のキャリア設計にも思いを馳せながら、納得のゆくコース選択に役立ててもらえればと思います。

国際文化学科教員一同

You,
Unlimited



多文化共生コース

Concentration in Multicultural Societies

多文化共生コース

Concentration in Multicultural Societies

文化の様々な側面を学び、異文化間の対話や交流の可能性を追究する

概要ならびに学びの目標

異なる文化間の対話や交流の可能性を探るべく、「コミュニケーション」、「宗教」、「社会」、「政治」、「暮らし」、「環境」をキーワードに、文化に関連した現代社会の様々な課題について学びます。グローバル化した現代社会では、ヒトやモノに加えて様々な価値観も国境を越え、文化の多様性が際立つ一方で、異なる文化間の摩擦や対立も深刻化しています。多文化共生コースでは、グローバルな時代に求められる知識や技法を学び、人類が多様性を保ちながら、いかに異文化間のコミュニケーションを図り、生活と環境に配慮しつつ共生していくことができるかを追究していきます。

履修モデル

学科基礎科目（16単位以上）を通じて、言語・社会・宗教・生活環境など、幅広い分野における多文化共生と異文化理解の必要性を学びます。次いで学科専攻科目（46単位以上。うちコース提供科目から34単位以上）を通じて、アメリカ・ヨーロッパに加え、存在感を強めるアジア・イスラーム世界や、世界三大宗教（仏教、キリスト教、イスラーム教）などについて学びを深めます。また、「国際文化実践Ⅰ・Ⅱ」（各2単位）を通じて、実践的な経験を積み、多文化社会の課題とその解決方法を修得していきます。

必修外国語（20単位以上）については、国際共通語としての英語に加えて他の言語、またコースでの学びと関連の深い専攻科目の、トルコ語、ペルシア語、アラビア語などのイスラーム系諸言語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、ロシア語などのヨーロッパ系諸言語を学ぶことも期待されます。



多文化共生コースが提供する科目

学科基礎科目

学科専攻科目につながる入門的な科目として、1年次から履修できる「学科基礎科目」があります。多文化共生コースでの学びに関連する学科基礎科目は以下のとおりです。

C1207X	多文化交流入門	C1211X	まちづくり入門
C1208X	宗教学概論	C1212X	社会心理学
C1209X	自然人類学概論	C1213X	言語とところ入門
C1210X	環境共生論入門	C1227X	歴史入門

学科専攻科目

多文化共生コースが提供する学科専攻科目は以下のとおりです。多文化共生コース所属の学生は、以下科目群の中から34単位以上を修得する必要があります。

C2401X	住居学概論	C2418X	音声学概論
C2402X	居住環境概論	C2419X	NGO/NPO論
C2403X	多文化交流論A	C2420X	国際政治学入門
C2404X	多文化交流論B	C3421X	都市計画論
C2405X	多文化共生と宗教	C3422X	比較宗教思想
C2406X	キリスト教の文化A	C3423X	自然と文化
C2407X	キリスト教の文化B	C3424X	社会調査法
C2408X	環境人類学	C3425X	英語外書購読A
C2409X	環境保全論	C3426X	英語外書購読B
C2410X	フィールド実習	C3427X	比較言語学
C2411X	中東政治論	C2428E	Exploring Cultures
C2412X	イスラームの文化A	C3701X	演習 I
C3413X	イスラームの文化B	C3702X	演習 II
C2414X	イスラームの社会A	C4703X	演習 III
C3415X	イスラームの社会B	C4704X	演習 IV
C2416X	言語とところA	C4801X	卒業論文 (6単位)
C2417X	言語とところB	※「卒業論文」以外はすべて2単位	

注1) 科目名の前にあるのはグレードナンバーです。

注2) コース共通の学科専攻科目もあります (本冊子p.43参照)。

● **専門分野・領域** 語彙、統語論、言語史

● **最近関心のある研究テーマ**

- ・ 語形成
- ・ 文の構成
- ・ 音韻史

● **主たる担当科目**

音声学概論、英語外書購読、比較言語学 など



● **最終学位および授与機構** : Ph.D. The University of Michigan

● **主要研究論文のリスト**

- ① The Japanese Particles Wa and Ga: A Quantitative Study of a Text (博士論文) 平成4年5月 University of Michigan Ph.D. Dissertation. University Microfilms International (UMI) 出版
- ② Word Order and Hierarchical Structure in the Theory of Government and Binding 平成 2年 3月 『神奈川大学言語研究』 第12号 pp.87-113. 神奈川大学外国語研究センター
- ③ Structural Case-assignment in the Double NP Construction 平成 2年 3月 『現代英米文化』 第20号 pp.111-116. 立正大学教養部英語科 現代英米文化学会
- ④ Topic and Comment in Sanskrit 平成13年 3月 『国際文化研究』 第5号 pp.34-46. 龍谷大学国際文化学会
- ⑤ “Subject” and “Topic” in Japanese 平成18年 3月 『国際文化研究』 第10号 pp.89-98. 龍谷大学国際文化学会
- ⑥ The Non-agentive Subject and the Notion of “Sentence” 平成19年 3月 『国際文化研究』 第11号 pp.59-68. 龍谷大学国際文化学会
- ⑦ The Ablative Absolute in Latin and the Locative Absolute in Sanskrit 平成22年 3月 『国際文化研究』 第14号 pp.91-100. 龍谷大学国際文化学会
- ⑧ 植物名称表記の方法について 平成27年 3月 『龍谷紀要』 第36巻第2号 pp.1-6. 龍谷大学龍谷紀要編集会
- ⑨ キリスト教の成立と西欧言語の発達 平成29年 6月 『多文化時代の宗教論入門』 第5章 pp.109-138. ミネルヴァ書房

● **学生へのコメント**

上記、現在のリサーチテーマに書いていることは、私のクラス、「比較言語学」と「英語外書購読」でも話題に取り上げて、お話しする予定です。

● **専門分野・領域** 歴史学・イスラーム地域研究

● **最近関心のある研究テーマ**

- ・イスラームの歴史文化研究
- ・中東・国際情勢研究
- ・シルクロード文化史研究

● **主たる担当科目**

中東政治論、イスラームの社会A/B、ペルシア語セミナーⅠ、Ⅱ など

● **学歴**

ハーヴァード大学修士課程、慶応大学博士課程修了。博士（法学）。

● **プロフィール**

学生のころ、イスラーム、シルクロードに興味を持って専門家に。外務省の専門調査員などを務め、龍谷大学国際学部で活動。学生ともどもイスラーム理解と交流に努めており、これまで6回海外研修旅行を引率しています。

● **主要業績**

『近代イラン知識人の系譜』 ミネルヴァ書房 2010年

『文化交流のエリアスタディーズー日本につながる文化の道』 共編著 2011年

『我が子よ、かくあれー『雄弁の道』より聖アリーの手紙 第31番翻訳』 英訳著『雄弁の道』 研究所（イラン） 2015年

『多文化時代の宗教論入門』 共編著 2017年

● **卒論テーマ**

「サーサーン朝ペルシア文化の日本への伝播」

「フランスにおけるイスラーム系移民の諸問題」

「近現代のペルシア絨毯についてーイスファハーンを中心にー」

● **ひとこと**

グローバル化の中で10数億の人口を有するイスラーム諸国は多文化共生の実現のため無視できない存在となっている。国際文化学科に来たからには、高校までと違った、新しく重要なことを学んでいこう！好奇心あふれる学生を期待します。



エジプトの民主化・本学部における講演会



シルクロードのダンス・学生研修旅行にて

- **専門分野・領域** 居住環境計画、都市計画、まちづくり
- **最近関心のある研究テーマ**
都市シミュレーション
- **主たる担当科目**
まちづくり入門、住居学概論、居住環境概論、都市計画論など



- **取得学位** 博士（工学）
- **演習のテーマ**
住宅問題、都市計画、まちづくり、少子・高齢化の下での近隣計画など

- **卒論について**
住宅問題、商店街、公園、自分の暮らすまちなど身近なところから課題を見つけ、それを解決する方法を提案することを目標とします。犬や猫との共生、盲導犬などの補助犬普及のための方策についての研究、バリアフリーなども歓迎します。卒業論文執筆にあたっては文献資料の調査だけでなく、インタビュー調査、アンケート調査、フィールドワークなどを行い、自分で一次資料を集めることを必須とします。

- **研究テーマ**
日本で多文化共生というと、外国人と日本人の共生がまず浮かびますが、日本人といっても同じではありません。結婚しない人、結婚しても子どもを持たない夫婦、国際結婚など色々なケースがあります。年代も子どもから高齢者まで様々で、それぞれの生活のペースがあって暮らしています。地域の中で、様々な人がその人らしく生きられるようにすることが大切です。

日本では人口が減少しており、政府もコンパクトシティということを政策として提案しています。今までより狭い地域で様々な人が共生していくためには、解決する必要がある問題・課題がたくさんあります。問題や課題を明らかにし、それを解決する方法を提案していくことを研究テーマとしています。

- **研究業績**
「まちづくりと宗教」 壽崎かすみ『多文化時代の宗教論入門』久松英二、佐野東生編著、ミネルヴァ書房、第2章 PP. 35-60, 2017

“The current QOL situation of inhabitants of urban areas in Japan From the perspective of living with companion animals”, Kasumi Susaki, 6th Central European Conference in Regional Science Engines of Urban and Regional Development Conference Proceedings PP. 277-286, 2017

“Evaluation of Japanese residential area from the perspective of living with companion animals – A case study in Japan’s Hanshin-area” Kasumi Susaki, ISOCARP-OAPA Proceedings_V6 2017

- **学生さんへのメッセージ**
社会は変わります。「すぐに」とはいきませんが、10年、20年の単位で変わっていきます。「おかしいな」と感じたことをきちんと考えてみてください。そして「おかしくない」ようにする努力をはじめてください。

● **専門分野・領域** 人類学、霊長類学、保全生態学

● **最近関心のある研究テーマ**

- ・ 霊長類の社会構造
- ・ 進化論受容における文化間変異
- ・ 熱帯林の保全にかかわる人類学

● **取得学位**：博士（理学） [京都大学]

● **担当科目**：環境人類学・自然人類学概論・環境保全論・自然と文化・フィールド実習（屋久島・京都）

● **演習の紹介**：人と自然の人類学

演習では、幅広いテーマを扱っています。自然、環境、動物、進化、食文化などを含むヒトと自然の関係について、各学生ひとりひとりが、具体的なテーマや問題設定をゼミで討論しながら練り上げていきます。さらに、自分の興味ある地域で、植物や動物そのものや、文化や自然にかかわる人間の営みについてのフィールドワークをすることが望まれます。

● **卒論のタイトル例**

① 神々に見たてられた樹々・② 動物園における国際交流・③ エコツアーの果たす役割～環境教育の側面からみたエコツアー～・④ ダチョウの飼育と利用を日本に定着させることはできるのか・⑤ 日本とスウェーデンのチョコレートから見るパーム油問題

● **学生さんへのメッセージ**

このゼミは自然や自然とかかわる人々を相手に、聞き取りやフィールドワークを行う行動力のある学生に向いています。ゼミは大学教育の根幹です。自分の興味にしたがって事物のなりたちを追求すること、つまり研究することは、やりがいのある楽しい作業です。ゼミの仲間との討論をとおして、お互いに理解を深めあう経験は、講義を聴くだけではえられない経験になるでしょう。

● **主要出版物**

鈴木滋2007.「サルからみた里山」『里山学のすすめ－文化としての自然>再生にむけて』丸山徳次・宮浦富保編，昭和堂，京都，pp.272-288.

鈴木滋2008.「社会構造の系統的安定性：ニホンザルの順位と性から考える」『日本の霊長類学2 中大型哺乳類・霊長類』高槻成紀・山極寿一編，東京大学出版会，東京，pp.200-220.

鈴木滋2012.「十二支考の猿たち」季刊民族学，139：60-65.

鈴木滋2013.「同所的に生息するゴリラとチンパンジーの種間関係を探る」生物科学，64：85-94.

鈴木滋2014.「ヒトによる『共生』は可能か－生物学との関係をさぐる」『「多文化共生」を問い直す－グローバル化時代の可能性と限界－』権五定・斎藤文彦編著，日本経済評論社，東京，pp.1-16.

鈴木滋2017.「現代進化論と宗教」『多文化時代の宗教論入門』佐野東生・久松英二編著，ミネルヴァ書房，京都，pp.83-104.

鈴木滋2019. 人類学の視点でサルを捉えるとはどういうことか。日本人類学会進化人類学分科会ニューズレター 2019/01: 12-14.



● **専門分野・領域** 人文学、言語学、英語学

● **最近関心のある研究テーマ**

- ・ Computer Assisted Language Learning (CALL)
- ・ English as a Second Language (ESL)
- ・ Creative Education
- ・ Global and American issues

● **主たる担当科目**

English Communication I/II、上級英語、Exploring Cultures など



● **Highest degree obtained and its granted institution**

Masters of Education, Temple University

● **List of your major publications**

- ・ Terhune, N. M. (2015). Language learning going global: Linking teachers and learners via commercial Skype-based CMC, *Computer Assisted Language Learning*, Taylor and Francis, DOI:10.1080/09588221.2015.1061020.
- ・ Terhune, N. M. (2013). Learning to Learn Digitally: Getting Students on the Road to Autonomy, *International Journal of Computer-Assisted Language Learning and Teaching*, IGI Global, vol. 3, no.4, pp. 9-24.
- ・ Terhune, N.M. (2009). Designed for the Task:A look at the design of some task-based CALL materials. *Intercultural Studies*,13. Ryukoku University, Faculty of Intercultural Communication.
- ・ Terhune, N.M. (2003). Putting Online Filmography to the Test. *Society and Culture*, 5, 107-136. *Journal of the Socio-Cultural Research Institute*, Ryukoku University. with M. Shawback.
- ・ Terhune, N.M. (2002). Online interactive courseware: using movies to promote cultural understanding in a CALL environment. *ReCALL*, 14(1), pp.85-95. Cambridge University Press. with M. Shawback.

● **Recommended books / suggested readings for students in your course**

For students interested in ESL-*Second Language Acquisition* by Rod Ellis,

For those interested in ESL listening-*Second Language Listening* by John Flowerdew and Lindsay Miner, For a student interested in *CALL-CALL Dimensions* by Mike Levy and Glen Stockwell,

If you are interested in creative education-*The Element: How Finding Your Passion Changes Everything* by Sir Ken Robinson,

And, if you are interested in current global and/or American issues read a newspaper or news magazine in print or online.

● **Comments (to students)**

One of the best ways to improve your English is to read, read, read. Also, if you want to improve your listening ability use an mp3 player and listen to podcasts in English. There are easy English podcasts at eslpodcast.com and VOA Special English or just google ESL podcasts.

● **専門分野・領域** イスラーム美術史

● **最近関心のある研究テーマ**

中世の中東イスラーム世界における「驚異」の視覚化について（13世紀の百科全書に描かれた異境や怪異を描いた挿絵の研究）

● **主たる担当科目**

多文化交流入門、イスラームの文化、多文化交流論 など



● **学位・授与機関**

ロンドン大学アジア・アフリカ研究院(SOAS)卒業 (BA in History of Art & Archaeology)。ロンドン大学大学院修士課程修了(MA in History of Art & Archaeology)。龍谷大学大学院博士課程修了 (博士[国際文化学])。

● **プロフィール**

1978年 静岡県生まれ。高校を卒業後、日本の大学ではなくイギリスのロンドン大学に進学。アジア・アフリカの研究を専門とするカレッジでイスラーム地域の美術史について学びました。イスラームの宗教建築をはじめ、写本絵画、陶器、タイル、ガラス器、金属工芸など人々の生活の中から生み出された工芸美術の造形や装飾について研究調査を行っています。主な研究領域は、地中海沿岸のイスラーム文化圏（スペイン、北アフリカ、中東）と西アジア。

● **研究テーマ**

現在取り組んでいる研究は、驚異譚にみる東西文化交流の諸相を美術の側面から解明することです。中世の百科全書や歴史書に登場する不思議な生き物や怪異、奇異な事物の挿絵を東西文化で比較して、世界観の相違やイメージ・知識の伝播などを探っています。そのほか、世界の民族衣装や装飾・建物の意匠などの研究にも取り組んでいます。

● **主な著書・論文**

「中東イスラーム世界の写本絵画と驚異」 山中由里子編 『〈驚異〉の文化史』 2015年名古屋大学出版会 所収

「西アジアの美術 先史～ササン朝ペルシア」 「イスラームの美術 ウマイヤ朝～サファヴィー朝」 「用語解説」 金子典正編 『アジアの芸術史 造形篇 II 朝鮮半島・西アジア・中央アジア・インド』 2013年 芸術学舎・幻冬舎 所収

“The Turkman Commercial Style of Painting: Origins and Developments Reconsidered,” in *Orient*, vol.XLVII, 2012, pp.169-190.

「ペルシア細密画にみる『創造物の不思議』 -イギリス王立アジア協会所蔵・トゥルクマーン王朝時代の写本より-」 『民族藝術』 第28号 (2012) pp.101-109.

Formation and Stylistic Development of Turkman Painting: A Study of Pictorial Tradition of Persian Miniature Painting from Western and North Western Iran Between A.D. 1419 and A.D. 1504, Ph.D Dissertation, 龍谷大学 2012年



● **専門分野・領域** 神学・宗教学

● **最近関心のある研究テーマ**

東方キリスト教神秘主義（ヘシユカズム）とヒンズー教（ヨーガ思想）と
イスラーム神秘主義（スーフィズム）の比較研究

● **主たる担当科目**

宗教学概論、キリスト教の文化、比較宗教思想 など



● **取得学位**：博士（神学） [ウィーン大学]

● **演習の紹介**：諸宗教の比較研究

本演習ではキリスト教、仏教やイスラーム教といった世界宗教を始め、ヒンドゥー教、ユダヤ教、神道などの民族宗教あるいは日本においてその活動が注目されている新宗教または新新宗教などを様々な視点から比較してみたいと考えています。たとえば、祈りや儀式、生活習慣、メンタリティー、人間関係、倫理、死後の考え方などいろんな観点が考えられます。このような比較研究を通じて、国際的な文化理解を深めていきます。

● **卒論のタイトル**

- ①キリスト教とイスラーム教における女性の地位
- ②神道とヒンドゥー教における自然理解
- ③創価学会と霊友会の平和活動

● **学生さんへのメッセージ**

この演習では、皆さんの積極的な参加が大切です。無断で欠席したり、やむをえない事情以外で遅刻したりすることは厳禁です。

● **主要出版物**

- Hisamatsu, E. 1994. (単著) 『Gregorios Sinaites als Lehrer des Gebetes』 Oros Verlag (Germany)
- 久松英二 2009. (単著) 『祈りの心身技法—14世紀ビザンツのアトス静寂主義』 京都大学学術出版会.
- 久松英二 2010. (単著) 『ルードルフ・オットー：聖なるもの』 岩波文庫.
- 久松英二 2000. (共著) 『宗教と宗教の〈あいだ〉』 風媒社.
- 久松英二 2012. (単著) 『ギリシア正教—東方の智』 講談社メチエ.
- Hisamatsu, E. 2006. (共著) 『Prayer and Spirituality in the Early Church, vol. 4: The Spiritual Life』 St. Pauls Publications (Strathfield NSW).



● **専門分野・領域** Educational Linguistics

● **最近関心のある研究テーマ**

・言語とところ

● **主たる担当科目**

言語とところ入門、言語とところ など

● **最終学位および授与機構** : Ph.D. (Educational Linguistics), University of Pennsylvania

● **主要研究論文のリスト**

・ Futaba, Terufumi (2001) "Developing In-house assessment for English performance in universities: Additions to standardized testing" Melbourne Papers in Language Testing Vol.10, No.1, pp.23-35

・ Futaba, Terufumi (2003) "Developing an oral comprehensive examination for the understanding of Japanese society as an alternative for graduation thesis" INTERCULTURAL COMMUNICATION STUDIES, Vol.12, No.1, pp.17-24

・ Futaba, Terufumi (2003) "Intercultural competence for English teacher education" TESOL France the Journal, Vol. 10, pp.19-34

● **学生へのコメント**

大学で学習を始めるにあたってまず認識してほしいのは、私達が地球全ての生き物たちとつながっているということです。私達の体の70%を占める水は地球誕生以来、地球の中だけを循環しています。水が汚れたとって、南極に配水管を設置して、地球外に汚水を排水することができるでしょうか？またきれいな水を他の星から宇宙船で配達してもらえるでしょうか？「私達と自然」ではなく、「私達が自然の一部」だという認識です。自然の中の物を過剰に摂取すれば、地球に住む世界の人たちと生き物が行き場を失い、最後には私達自身を破滅に導きます。私達の教室での学習や、自らの探求は、自然との対話あってこそその学習と言えるでしょう。新しい言語を使って、世界の人たちの生活から自然とともに生きる方法を学び、その新しい視点でもう一度自分の住んでいるところを眺めれば、今まで考えてもいなかった問題解決の糸口が見つかるかもしれません。インド独立の父と呼ばれたマハトマ・ガンディーは、私達にこう語りかけます。We must become the change we want to see in the world. (私たちは世界で見たいと思う変化にならなければなりません。) この多文化共生コースを通して、一緒に「世界で見たいと思う変化」は何かを探求し、自分で出来ることを今日からはじめていきましょう。

● **専門分野・領域** 社会心理学、社会学

● **最近関心のある研究テーマ**

- ・ サービス・ラーニング
- ・ グローバル・シチズンシップ
- ・ ボランティア活動

● **主たる担当科目**

調査分析の基礎、社会心理学、NGO/NGO論、社会調査法 など



● **取得学位**：学術修士 [大阪大学人間科学研究科]

● **演習の紹介**

演習Ⅰで実験的観察法やインタビュー調査の実習を、演習Ⅱでは各自の自由な関心によるミニ卒論の研究を行います。

論文や書物等の文献研究だけでなく、フィールドを設定した観察、実験、調査に拠る実証的な研究が必須となります。

● **卒論のタイトル**

- ① マンガのアニメ化による印象変化に関する研究
- ② スマートフォンを使ったユビキタス観光の可能性
- ③ 吉野山 千本桜の保全活動
- ④ セラピードッグに要求される特性

● **学生さんへのメッセージ**

大学ではよく遊び、よく学ぶことが大切です。どちらもしっかり身につけ、キャリア展開に生かしてください。よく学んだことの証（あかし）が演習における卒業論文ということになります。夏季休暇中に実施するゼミ合宿では、ミニ卒論の研究計画(3年生)、卒論の中間報告(4年生)についてプレゼンテーションしてもらいます。「社会調査法」の2年次(3年次可)における履修が望ましいです。



● **著書・論文**

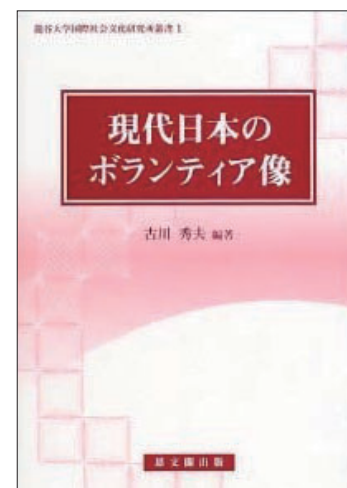
古川秀夫, 2002. 『現代日本のボランティア像』(編著)
思文閣出版.

古川秀夫, 2006. 「イギリスにおける公共政策と青少年
のコミュニティベースのボランティア活動」
龍谷大学国際社会文化研究所紀要 8: 18-26.

古川秀夫, 2006. 「大学誘致の成功と失敗-大学と自治
体への質問紙調査から」国際文化研究10: 163-172.

古川秀夫, 2010. 「東京都立高校における必修科目『奉仕』
導入をめぐる言説について」

龍谷大学国際社会文化研究所紀要 12: 35-45



You,
Unlimited



龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY

世界と日本コース

Concentration in the World and Japan

世界と日本コース

Concentration in the World and Japan

「世界を学び、日本を知る」ことで、多面的な文化理解を志向する

概要ならびに学びの目標

「世界から見た日本」、「日本から見た世界」をキーワードに、世界の多面的な文化について学びます。特にアジアならびに環太平洋地域を中心に、世界の多様な文化の根底にある「基層」を学び、地域研究の枠組みを超えた多様なカルチュラルルート（文化が伝わってきた道程）を解明していきます。その一方で、日本文化と密接に関係する東アジアの言語や文化、移民を含む人々の相互交流が文化に与える影響、仏教を中心とした宗教文化などを深く学ぶことで、自らが所属する文化の正確な理解を目指します。

履修モデル

学科基礎科目（16単位以上）を通じて、世界と日本の関わり、世界の中における日本の位置づけ、また、フィールドワークなど調査分析方法の基礎を学びます。次いで学科専攻科目（46単位以上。うちコース提供科目から34単位以上）を通じて、興味と関心にもとづく専門的な観点から、世界と日本の関わりについて学びます。また、「国際文化実践Ⅰ・Ⅱ」（各2単位）を通じて、世界と日本の関わりを実体験し、一つの国や地域を学ぶだけでは見えてこない、世界と日本を結ぶ文化的なつながりを追究します。

必修外国語（20単位以上）については、国際共通語としての英語に加えて、中国語や韓国語を履修し、東アジアの影響を強く受けた日本社会・文化の理解を深めることが期待されます。



世界と日本コースが提供する科目

学科基礎科目

学科専攻科目につながる入門的な科目として、1年次から履修できる「学科基礎科目」があります。世界と日本コースでの学びに関連する学科基礎科目は以下のとおりです。

C1215X	東アジアの地域交流	C1218X	日本語論文表現（初級）
C1216X	現代経済と文化	C1219X	日本語論文表現（上級）
C1217X	文化人類学入門		

学科専攻科目

世界と日本コースが提供する学科専攻科目は以下のとおりです。世界と日本コース所属の学生は、以下科目群の中から34単位以上を修得する必要があります。

C2501X	世界の宗教と日本	C2518X	日本語教育実践
C2502X	日本の宗教	C2519X	日本の思想
C3503X	日本の仏教文化	C2520X	日本の近現代と国際関係
C2504X	アジアの仏教文化	C2521X	京ことばと京文化
C2505X	アジアの文化遺産	C3522X	世界と日本の民俗
C3506X	東アジアの古代文化	C2523X	観光行動論
C3507X	中央アジアと日本	C2524X	観光経営論
C2508X	日本の経済と社会	C3525X	観光文化論A
C2509X	国際人口移動	C2526X	世界と日本の文学
C3510X	国際経済と日本	C2527E	Comparative Culture
C2511X	海外における日本観	C3701X	演習Ⅰ
C2512X	オセアニアと日本	C3702X	演習Ⅱ
C3513X	パンパシフィックの移民	C4703X	演習Ⅲ
C3514X	日本の社会	C4704X	演習Ⅳ
C2515X	日本の言語文化	C4801X	卒業論文（6単位）
C2516X	日本語から見た歴史と文化		
C2517X	日本語教育入門	※「卒業論文」以外はすべて2単位	

注1) 科目名の前にあるのはグレードナンバーです。

注2) コース共通の学科専攻科目もあります（本冊子p.43参照）。

● **専門分野・領域** 語彙論、日本語教育学、言語史

● **最近関心のある研究テーマ**

- ・京ことばコミュニケーション
- ・京都の伝統と進取性
- ・日本語の固有性と普遍性

● **主たる担当科目**

日本語セミナー、日本語論文表現、日本の言語文化、日本語教育入門、京ことばと京文化、国際文化実践プログラムⅡ（祇園祭） など



● **プロフィール**

博士（文学）。国際交流基金・韓国国立慶尚大学校・北京日本学研究中心・ベルリン日独センター等々の講師を歴任。青年海外協力隊日本語教員への指導・中国や韓国の日本語教師の再研修等も担当。国際文化フォーラム専門員。日本語教育学会評議員。日本国際文化学会・日本比較文化学会・日本語教育誤用例研究会・京都民俗学会・ことわざ学会等所属。日本語学・言語学・日本語教育学・京都研究を専門とする。他に社会活動として、京都市民講座・NHK文化講座・京都大学コンソーシアム等の講師や京都府・京都市の京ことば関連事業、京都観光事業を務め、『天地明察』『舞妓はレディ』等の映画の京ことば指導にも当たる。

● **業績**

『京ことばとその周辺』（東洋書房）『日本語学を学ぶ人のために』（世界思想社）、『新しい日本語研究を学ぶ人のために』（世界思想社）、『中国中高校日本語教師研修テキスト』（国際文化フォーラム）、『日本語Ⅰ』（韓国高等学校検定教科書）『新版日本語教育事典』（大修館）、『大学・大学院総合日本語』（凡人社）、『キャリア開発ビジネスサポート5言語対応辞典』（英光社）、『韓国語動詞と形容詞の使い方辞典』（三省堂）、『すぐに役立つ韓国語会話・フレーズ』（学習研究社）、『韓国語入門ワーク』（学習研究社）『葵祭に行くっ』『祇園祭に行くっ』（京都市観光局MICE）等々。

● **卒論テーマ**

「舞妓さんのことば」「若者ことばの諸相」「京都の魅力ーインバウンドの視点ー」「イタリアと日本の食文化比較」「富山方言の特徴」「内蒙古自治区の日本語教育の現状と課題」「韓国の日本語教育の歴史」「ニュージーランドの高校における日本語授業」「日本語由来の外来語ー台湾の場合ー」「職場における敬語表現」「女性語と男性語」「祇園祭と町衆」「スポーツのサインと手話」等々。

● **学生さんへのメッセージ**

大学・大学院は自ら学ぶ、研究の場です。専門の先生方や充実した図書館のもとで、大いに励んで下さい。



● 専門分野・領域 国際労働移動、経済学

● 最近関心のある研究テーマ

アジア地域における国際労働移動

人的資源と経済発展

日本における「消費者」としての外国人、「労働者」としての外国人

● 主たる担当科目

現代経済と文化、日本の経済と社会、国際人口移動、国際経済と日本、
パンパシフィックの移民 など

● 取得学位：博士（経済学）〔神戸大学〕

● 演習の紹介：「労働者」としての外国人、「消費者」としての外国人

少子高齢化が急速に進行している日本において、外国人と経済との関わりはますます強くなると思われる。それは、外国人が、観光者のような「消費者としての外国人」、そして人手不足の産業で働く「労働者としての外国人」の二面を持っているからである。そのため、日本社会ではさらなる外国人の活躍が必要であるかについて大きな社会的関心を引いている。本ゼミでは、主に経済学の観点から外国人の受け入れに関する諸課題を検討する。学習方法としては教室内での講義、発表、討論、グループワークに加えてフィールドワークおよびプロジェクト型の学習方法をも取り入れている。

● 卒論のタイトル

An Analysis of Japanese and Filipino Media Portrayal of Migrant Nurses in Japan

訪日外国人観光客の誘致政策の検討～口コミを例にあげて～

日本における移民の高齢化の課題～在留フィリピン人女性の老後を考える～

滞日ムスリムの社会統合の課題～食生活から見る移民コミュニティの役割に着目して～

京町家の有効活用と地域の町おこしの一考察～伏見区の京町家を事例に～

● 学生さんへのメッセージ

外国人労働者が急増している中で、皆さんが近い将来、外国人にサービスを提供する立場だけでなく、外国人と一緒に働く機会も増えるはずですよ。その時に備えてどんなスキルを身に着く必要があるかを、講義やゼミを通じて一緒に考えましょう。

● 主要出版物

(1) Carlos, M.R.D. and Suzuki, Y. (2019) "Japan's kaigoryugaku scheme: Student pathway for care workers from the Philippines and other Asian countries" in Human Resource Development, Employment and Mobility of Healthcare Professionals in South East Asia: The Case of Nurses (Tsujita, Y. ed). JETRO-Bangkok and IDE-JETRO Bangkok Research Center (BRC) Research Report.

(2) Carlos, M.R.D. (2017) 「フィリピンにおける人身取引と法——予防・取締りの法体制と実態」(青木理恵子訳)『人の国際移動と現代日本の法: 人身取引・外国人労働・入管法制』(大久保・橋爪・吉田編集) 日本評論社, pp.137-160.

(3) カルロス、マリア・レイナルース (2010) 「日本の労働市場におけるフィリピン人介護労働者の三つの軌跡」『越境するケア労働』(佐藤誠編) 日本経済評論社 pp. 39-60.



(タイ・ミャンマーの国境での実践プログラム)



(韓国でのゼミ旅行)

● **専門分野・領域** 現代中国語の文法、日本人向け中国語教育

● **最近関心のある研究テーマ**

・中日言語・文化コミュニケーションの比較研究

● **主たる担当科目**

中国語、中国語セミナー、実践中国語 など



● **最終学位および授与機構**：博士（文学）

[中国文学 関西大学大学院]

● **主要研究**

〔教科書〕

史彤嵐 (2001) 『ちょっとまじめに中国語』共著 (日下恒夫), 同学社

史彤嵐 (2009) 『北京びより』中級中国語テキスト, 共著 (金子真也), 好文出版

〔著書〕

史彤嵐 (2008) 『動作行為性状と結果的表达方式研究』, 好文出版

〔研究論文〕

史彤嵐 (1999) 「V得A構文について」, 『中国語学』第246号, p 98-106, 日本中国語学会

史彤嵐 (2001) 「「V得C」構文における“得”の文法機能」, 『中国語学』第248号, p168-181, 日本中国語学会

史彤嵐 (2006) 「“玩个痛快”“忙得个不亦乐乎”类补语考察」, 『中国語教育』第4号, p 49-56, 日本中国語教育学会

史彤嵐 (2008) 「试论“笑弯了腰”类“VC了”与“笑得弯下腰来”类“V得C”的功能差异」, 『走向世界的汉语教学探索—第四届对外汉语国际学术研讨会论文集』, p 244-256, 北京语言大学对外汉语研究中心编, 外语教学与研究出版社, 北京

史彤嵐 (2009) 「试考察“好+一+量词+NP”类感叹句式」, 『龍谷大学国際文化研究』第13号, 龍谷大学国際文化学会

史彤嵐 (2010) 「试论“除非”句的语篇功能」, 『中国語教育』第8号, p 203-211, 日本中国語教育学会

史彤嵐 (2010) 「试论“对面有一对男女走过来”类表“出现”的“有”字句」, 『中国語学』第257号, 日本中国語学会

史彤嵐 (2013) 「汉日言语行为的文化差异分析—以问候、致谢及道歉为例—」, 龍谷大学『国際文化研究』第17号

史彤嵐 (2015) 「关于“肯”的语义语用特点及与“愿意”的区别」『中国語教育』第13号, 日本中国語教育学会

● **学生への推薦図書、読み物**

〔辞書類〕

・商務、小学館共編『中日辞典』『日中辞典』, 小学館

電子辞書版：カシオ・EX-word XD-R7300

セイコー・IC DICTIONARY SR-T5030

・伊地智善継編『中国語辞典』, 白水社

・愛知大学『中日大辞典増訂第二版』, 大修館書店

・相原茂編『中国語学習辞典』, 朝日出版社

〔参考書及び問題集等〕

・相原茂 (1990) 『初めての中国語』, 講談社現代新書

・木村英樹 (1996) 『中国語はじめの一步』, ちくま新書

・中川正之 (1996) 『はじめての人の中国語』, くろしお出版

・相原茂ほか (1996) 『Why? にこたえるはじめての中国語の文法書』, 同学社

・守屋宏則 (1995) 『やさしくくわしい中国語の文法の基礎』, 東方書店

・張黎/佐藤晴彦 (2007) 『「話せる」「書ける」表現のための中国語文法』, アルク

・相原茂・荒川清秀ほか (2000) 『中国語教室Q&A101』, 大修館

・来思平ほか (1993) 『日本人の中国語—誤用例54例』, 東方書店

・相原茂 (2007) 『「感謝」と「謝罪」はじめて聞く日中“異文化”の話』, 講談社

・『中検4級問題集2019年版』, 光生館



● **学生へのコメント**

“百聞不如一见(百聞は一見にしかず)”。中国に短期留学、長期留学を薦めます。

- 専門分野・領域 中国考古学と東アジア文化交流史
- 最近関心のある研究テーマ
 - ・ 古墳壁画から見る宗教信仰
 - ・ 魏志倭人伝研究
- 主たる担当科目
東アジアの地域交流、アジアの文化遺産、東アジアの古代文化 など



- プロフィール
吉林大学大学院歴史学修士 中国考古学と東アジア文化交流史専攻
- 業績
『東北アジア古代文化論叢』（編著）、北九州中国書店、2008年。
「墓葬絵画と浄土信仰」『龍谷大学国際社会文化研究所紀要』13号・2011、など。
「魏志倭人伝の里程問題について」安田喜憲・七田忠昭編『東シナ海と弥生文化』雄山閣、2018
- 卒論テーマ
円仁と山東半島、唐墓壁画考古学研究、遼寧式青銅器文化について、蓬萊信仰について、など。
- ひとこと
故郷のような小地域の古今を知ったうえで国を越えた大地域へと視野を広げていきましょう。



始皇帝兵馬俑（陝西省考古研究院）



韓国古墳踏査（光州）



円仁の行記に出る赤山法華院（山東）



漢代画像石の拓本（徐州）

- **専門分野・領域** 日本の宗教、宗教学、宗教間対話
- **最近関心のある研究テーマ**
 - ・ アジアと欧米のエンゲージド・ブディズム
 - ・ 日本の近代化と仏教
 - ・ 日系移民と宗教
- **主たる担当科目**

日本の宗教、日本の宗教と文化 など



- **学生さんへのメッセージ**：文学修士 [龍谷大学]
- **演習の紹介**：人間と宗教－日本文化と思想を通して考える

ゼミでは、人間と宗教とのかかわりについて、日本文化と思想を通して考えていくことを共通テーマとします。近年、日本へは世界各国から多くの観光客がやって来ます。その目的はさまざまですが、特に日本文化と思想に関心を持っているようです。実は、さまざまな地域の特色のある文化や思想において、宗教が果たしてきた役割はとて大きいものがあります。たとえば、京都を訪れる多くの観光客が訪問する神社仏閣は、言うまでもなく伝統的な日本の宗教施設です。さらに、私たち日本人の生活様式や価値観には、日本の宗教思想が大きな影響を与えてきました。

このゼミでの一つの目標は、日本における人間と宗教との関わりについて探求することで、日本の宗教文化と思想について深く理解し、それを自分たちの立場から発信する力を身につけることにあります。また、なぜ日本文化あるいは京都という都市が多くの海外からの観光客を惹きつけるのか、国際的な視点から日本の宗教文化や思想の魅力と可能性について考えていくことにあります。

- **卒論のタイトル**
 - ① 観光と宗教文化
 - ② 日本人の宗教観について－なぜ日本人は創唱宗教に抵抗を持つのか？
 - ③ 豊かさとは何か－宗教と社会が見る貧困

- **学生さんへのメッセージ**

このゼミでは、宗教にかかわるさまざまなトピックを取り上げ、研究・調査・発表を行っていますが、具体的なテーマや進め方についてはすべてゼミ生で話し合って決めてもらっています。知ることはかかわること。かかわることは変わることです。一人ひとりが主役になって、積極的にゼミ活動に取り組むことで、大学生として学ぶことの醍醐味を味わってもらいたいと思います。そして、人間的にも大きく成長するきっかけにもしてください。

- **研究テーマ**
 - ・ アジア・アメリカの宗教と社会実践
 - ・ 日本の近代化と仏教
 - ・ 日系社会（ハワイ・アメリカ）の宗教

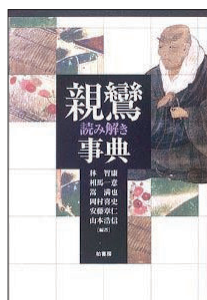
- **主要論文**

嵩 満也 (2011) 「シカゴ万国宗教会議と明治初期の日本仏教界 一島地黙雷と八淵蟠龍の動向を通して」 龍谷大学国際社会文化研究所紀要第13号。

Mitsuya Dake 2013(単著)“Shinran’s Understanding of Amida Buddha: An Example of the Embodiment of Hope in Buddhism”, Elizabeth Harris ed. Hope: a Form of Delusion?, EOS : Germany.

嵩 満也 (2014) 「アメリカ仏教における白人仏教徒の系譜」 『国際社会文化研究所紀要』 第16号。

嵩 満也 編著 (2018) 『伝統と変貌のインド-アンベードカルと再定義されるダルマ』 法蔵館。



● **専門分野・領域** 社会学、移民、エスニシティ及び人種の研究

● **最近関心のある研究テーマ**

- ・在日ヨーロッパ人：移動と統合
- ・ホワイト・マイグレーション（グローバル化時代における白人の移民）
- ・外国人観光客：祇園における地域住民と観光
- ・グローバル化と社会
- ・現代社会と近代

● **主たる担当科目**

日本の社会、海外における日本観

● **最終学位および授与機関**

文学（社会学）博士 京都大学

● **主要出版物**

Migration, Whiteness, and Cosmopolitanism: Europeans in Japan 単著
Palgrave MacMillan, 2016

「私のインタビュー戦略—現在の生活を理解するインタビュー調査」 単著 前田他編、
『最強の社会調査入門』、2016、ナカニシヤ出版

“*Contemporary family in Slovakia: Demography, values, gender and policy*” 共著

Zsombor T. Rajkai ed., *Family and Social Change in Socialist and Post-Socialist Societies: Change and Continuity in Eastern Europe and East Asia*, Brill, 2014

● **学生への推薦図書、読み物**

Gorge Orwell, 1947, *1984*（オーウェル、『1984年』、ハヤカワ文庫）

Hanna Arendt, 1961, *Eichmann in Jerusalem*（アレント、『イエルサレムのアイヒマン——悪の陳腐さについての報告』、みすず書房）

Anthony Giddens, *Runaway World*（ギデنز、『暴走する世界—グローバリゼーションは何をどう変えるのか』、ダイヤモンド社）

S. Castles, H. De Haas, M.J. Miller, 2014, *The Age of Migration*（カースルズ・ミラー、『国際移民の時代』〔第4版〕、名古屋大学出版会）

● **学生へのコメント**

グローバル化と多様化している国際移動に注目して、現代社会について一緒に学びましょう。日本だけではなく、西ヨーロッパや出身のスロバキアなどの国の事例について勉強していきたいです。国際移動とグローバル化は現代社会を理解するためには時宜を得ているテーマであり、日本だけではなく、世界で起きていることを自分で批判的に考えられるようになってほしい。また、調査方法も学び、学生生活のまとめとして卒業論文に励む学生を応援します。勉強以外でも楽しいゼミにしていきたいです。



● **専門分野・領域** 社会・文化人類学、オーストラリア研究、国際理解教育

● **最近関心のある研究テーマ**

- ・ オーストラリア先住民の伝統知と環境管理
- ・ 日本とオーストラリアにおける多文化・多民族共生
- ・ 国際理解教育としてのスタディツアー

● **主たる担当科目**

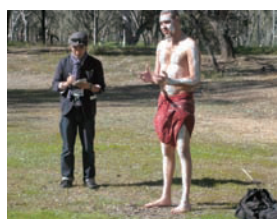
文化人類学入門、オセアニアと日本、観光文化論 など

● **取得学位** 総合研究大学院大学 博士（文学）

● **学生さんへのメッセージ**

私は、これまでに日本とオーストラリアのいくつかの研究機関や大学で、文化人類学を学び、それに関連した科目を教えてきました。そこで培ってきたことは、フィールドに出かけ、そこで人びとと出会い、彼・彼女たちの日常生活を見聞きすることで、自己中心的な考え方を直視し、多様な考え方に学び、自らを内省することで、さらなる成長につなげていく、ということでした。

グローバル化が急速に進展する今日の国際社会において、学生のみなさんを取り巻く状況は、私の学生時代のように「よく学び、よく遊ぶ」といった楽観的な状況ではなく、閉塞感や不安感に苛まれることが多いかもしれません。そこでは、単に知識を学ぶ、受身的な学習ではなく、自主的に考え、どのような状況にも対応し、行動できる能力、すなわち「実践知」が求められます。このため、みなさんには、自分が日本と国際社会のなかでどのような立場にあり、人類社会や自然環境に対して何ができるか「自己発見」し、その発見した「自己」を積極的に「表現」する。そして多様な考え方を認め合い、平和や人権が尊重される社会を構築するために行動できる、そうした「リーダー」や「ファシリテーター」として活躍してほしいと考えています。そのために必要となる「実践知」をともに学びましょう。



● **卒論のタイトル**

- ① 伝統文化を次世代に伝承する学校教育と地域コミュニティの取組～滋賀県彦根市・カロムを事例に～
- ② 世界の人が見る日本のトイレと今後の課題
- ③ オールブラックスから見るマオリ文化の未来の姿
- ④ 観光の対象とされる文化の商品化の真正性～宇治抹茶の世界進出を事例に～

● **主な研究業績**

〈書籍〉

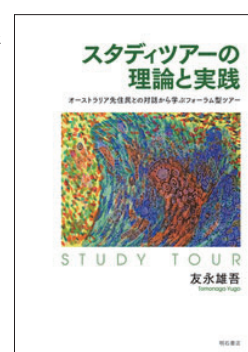
『スタディツアーの理論と実践：オーストラリア先住民との対話から学ぶフォーラム型ツアー』明石書店 2019年（単著）

International Workshop：Rethinking between Indigenous Knowledge and Modern Knowledge アインズ株式会社 2018年（共編著）

〈論文〉

Sustainable Collaborative Management for Conserving River Water Quality in Japan and Australia『国際社会文化研究所紀要』第21号、2019年、pp.93-104（共著）

「自己決定権と先住民」『国際文化研究』23、龍谷大学国際文化学会、2019年、3-16（単著）



● **専門分野・領域** 韓国語、韓国文学、民俗学

● **最近関心のある研究テーマ**

韓国語教育・日韓比較民俗

● **主たる担当科目**

코리아語、코리아語セミナー、実践코리아語、実践プログラム（韓国の訪問体験）

世界と日本の民俗 など

● **最終学位および授与機構**

文学博士、中央大学校 大学院（1992年）

● **現在のリサーチテーマ**

韓国語の教育、日本の昔話、韓日民俗の比較

● **主要研究論文のリスト**

朴 炫国外共著(2008)、「韓国靈山の綱引きについて」、『龍谷大学国際社会文化研究所紀要』第10号、pp5~15、龍谷大学国際社会文化研究所

朴 炫国(2008)、「韓国伝統芸術の言語表現について」、『龍谷大学国際社会文化研究所紀要』第10号、pp93~100、龍谷大学国際社会文化研究所

朴 炫国(2008)、「韓国語とキチュ語の/h(?)/音の比較研究」、『龍谷紀要』29巻 第2号、pp 37~48、龍谷大学龍谷紀要編集会

朴 炫国(2007)、「近江八幡の左義長祭りについて」、『比較民俗学』第33輯、pp 333~362、比較民俗学会

朴 炫国外共著(2006)、「日、中、韓漢字語の比較研究」、『龍谷大学国際社会文化研究所紀要』第8号、pp51~89、龍谷大学国際社会文化研究所

朴 炫国(1995)、『韓国空間説話研究』、pp1 - 295、国学資料院

朴 炫国(2012)、『韓国口伝説話集』21 井邑市山外面篇、pp2 - 472、民族苑

非常勤：申 礼淑、熊木 勉、黒崎 英花、北島 由紀子、権 世美、等々

● **学生への推薦図書、読み物等**

日本で販売される韓国関連図書は主に専攻書籍であり、その外の本は韓国や日本など立場にしたがって偏狭された内容が多いと思う。本を通じて理解するより熱心に韓国語をマスターし、直接韓国を訪問するか、韓国への語学研修を勧めます。

● **学生へのコメント**

最近日本関西地域の名勝地や観光地を韓国のインターネット新聞（オーマイニュース、oh my news）に紹介しています。もし自分の週辺に対して韓国に紹介したければ紹介する記事を韓国語や日本語で一緒に作成して見ましょう。

- **専門分野・領域** 仏教学、仏教文化学、古写本学
- **最近関心のある研究テーマ**
 - ・中央アジア出土写本
 - ・大谷探検隊
 - ・アジアの仏教文化
- **主たる担当科目** 仏教の思想、演習、卒業論文 など



● 自己紹介と専門分野

私は、大学院の学生時代から一貫して龍谷大学で学んできました。専門は仏教文化学で、古写本研究では、中国の旅順博物館など大谷探検隊収集品を見る機会も多く、100年以上前に仏教遺跡を目指した人々の努力に思いを馳せています。また、龍大では、国際学部はもちろん、文学部、理工学部など異分野・他領域の研究者との交流もあり、新たな発見の連続です。2011年4月に仏教総合博物館として龍谷ミュージアムが開館し、2012年度と2017年度には、ベルリンで在外研究することもできました。2015年度に深草学舎に移転し、質量とも世界最高レベルの仏教文献を保管する大宮図書館など、すばらしい環境で研究できる幸せを感じつつ、「世界と日本」コースに学ぶ学生の皆さんに、研究成果を還元していきたいと考えています。

● 担当科目

全学必修科目の「仏教の思想A/B」のほか、「演習」などを担当しています。龍大の建学の精神とつながる仏教を学ぶことを通して、物事を固定的に考えるのではなく多面的な視野をもち、自己をふりかえりつつ他者を思いやることの大切さに気づいてもらえればと考えています。また、日本文化の基層とつながる文化の継続性に目をむけてもらえたらと願っています。

● 主な研究業績 共著書

三谷真澄編 『「世界」へのまなざし～最古の世界地図から南方熊楠・大谷光瑞へ』 法蔵館、2017
 『チベットの仏教世界～もうひとつの大谷探検隊』（龍谷大学龍谷ミュージアム・産経新聞社・京都新聞編）（「青木文教と多田等観の将来資料(pp.163-171)」執筆）、2014
 『中央アジア出土の仏教写本』 旅順博物館・龍谷大学共編、郭富純・三谷真澄主編（「旅順博物館と龍谷大学の非漢字資料(pp.31-35)」執筆）、2012
 『西域流沙に響く仏教の調べ』（龍谷大学仏教学叢書2）能仁正顕編（「大谷コレクションと敦煌資料(pp.27-51)」）、「トルファン資料の意義—旅順博物館資料を中心として(pp.52-88)」執筆）、2011
 『釈尊と親鸞インドから日本への軌跡』 龍谷大学龍谷ミュージアム編、法蔵館、2011

学術論文

「ドイツトルファン隊収集の初期無量寿経写本」『佛教學研究』70, pp.(1)-(25), 2014
 「ベルリンの仏教事情」『佛教學研究』69, pp.285-308, 2013

● 卒論テーマ

「日本における仏教系世界図にみる『地図』の役割と機能」
 「幸せに対する価値観の違い～コスタリカ・日本・ブータンの比較」
 「観光立国 日本の創造」
 「ミャンマーと日本の仏教文化—在家者を中心にして輪廻を考える」
 「宗教を信じた心の行方～オウム真理教より」など



2012年度在外研究 ベルリンにて



国際敦煌プロジェクト国際会議にて
(ロンドン、2007年)



旅順博物館所蔵資料の国際学術会議にて
(大連、2005年)

- **専門分野・領域** 中国語言語学、社会言語学、会話分析
- **最近関心のある研究テーマ**
 - ・ 中国の方言の変化
 - ・ 中国のバイリンガルの現状
 - ・ 日中文化の比較
- **主たる担当科目**

中国語、中国語セミナー、実践中国語 など



- **最終学位および授与機構**：文学博士 [上海外国語大学]
- **主要出版物**

中国語言語学	共著	北京語言学院出版社 1995年7月
大連方言語彙	単著	「漢語方言大辞典」中華書局 1999/4/1
会話結構分析	単著	北京大学出版社 2004/12/1

- **学生への推薦図書、読み物**

張光正 (1988) 『日中生活習慣の違い』 金星堂
 相原茂 (2009) 『ちくわを食う女—中国語学者の日中異文化ノート』 現代書館
 王敏 王玲玲 (2008) 『中国社会事情を知つて鍛える中級中国語』 スリーエーネットワーク
 相原茂 ほか (1991) 『中国語学習Q & A 101』 大修館
 呂才楨 ほか (1995) 『日本人の誤りやすい中国語表現300例』 光生館
 張乃方 内藤正子 (2004) 『中国語の手紙』 白水社
 許徳楠 ほか (1996) 『中国語スピーチ・あいさつ』 東方書店
 于美香 于 羽 (2004) 『今すぐ書ける中国語レター・Eメール表現集』
 中国事情：http://www.spc.jst.go.jp/experiences/karyu/karyu_1509.html

- **学生へのコメント**

一見すると非常に「日本人にとって習得しやすそう」な言語です。そこに大きな落とし穴があります。中国語は難しいのではなく、「習得方法を間違えると、難しくなる外国語」です。安易にはじめてしまうと、挫折してしまいます。
 松平勝男のホームページ『中国語マスターの極意』
 (<http://www.studypro.rulez.jp/chinese>)
 川口亜希子のホームページ『中国語上達のツボ』
 (<http://jyoutatu-tubo.com>)
 伊藤美奈子のホームページ『HSK11級獲得！現役通訳が教える中国語学習法』
 (<http://www.chinese-master.com>)



You,
Unlimited



龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY

芸術・メディアコース

Concentration in Arts and Media

芸術・メディアコース

Concentration in Arts and Media

表現形式・手段としての芸術およびメディアの視点から文化を分析する

概要ならびに学びの目標

「さまざまな表現形式としての芸術」、「情報の伝達手段としてのメディア」をキーワードに、文化を学び、分析するための知識や技法を学びます。古典・伝統から現代のポップカルチャー／サブカルチャーに至るまで、多様化する芸術活動とメディアの広がり注目しながら、「文化とは何か」について解明していきます。また、自ら日本文化を世界に発信できる人材の育成も重視し、制作や表現活動に必要な実践的な知識、技法も学ぶことができるカリキュラムとしています。

履修モデル

学科基礎科目（16単位以上）を通じて、多様な芸術のジャンルとメディアの広がり、さらにその分析方法について基礎的な知識を学びます。次いで学科専攻科目（46単位以上。うちコース提供科目から34単位以上）を通じて、自らの興味や関心に応じた専門的な学びを深めていきます。また、「国際文化実践プログラムⅠ・Ⅱ」（各2単位）を通じて、自ら経験し実践することで、文化の理解・分析・表現をしていく際に求められる知識や技法を修得していきます。

必修外国語（20単位以上）については、国際共通語としての英語に加えて、中国語・フランス語・韓国語を履修し、各地域の豊かな芸術・文化表現について理解を深めることが期待されます。



芸術・メディアコースが提供する科目

学科基礎科目

学科専攻科目につながる入門的な科目として、1年次から履修できる「学科基礎科目」があります。芸術・メディアコースでの学びに関連する学科基礎科目は以下のとおりです。

C1221X	映像文化入門	C1224X	比較演劇入門
C1222X	大衆文化入門	C1225X	物語と文学
C1223X	メディア文化入門	C1226X	比較文化入門

学科専攻科目

芸術・メディアコースが提供する学科専攻科目は以下のとおりです。芸術・メディアコース所属の学生は、以下科目群の中から34単位以上を修得する必要があります。

C2601X	映像文化論A	C2616X	芸術表現法B
C2602X	映像文化論B	C2618X	芸術表現法D
C3603X	映像文化論C	C3619X	芸術表現法E
C3604X	映像文化論D	C2620X	日本の美術
C3605X	映像文化論E	C2621X	アジアの美術
C2606X	大衆文化論A	C2622X	西洋の美術
C2607X	大衆文化論B	C2623X	音楽芸術論
C2608X	大衆文化論C	C2624X	アートマネジメント
C2609X	大衆文化論D	C2625X	伝統芸能論
C3610X	大衆文化論E	C3626X	欧米の演劇
C2611X	メディア文化論A	C3701X	演習Ⅰ
C2612X	メディア文化論B	C3702X	演習Ⅱ
C2613X	メディア文化論C	C4703X	演習Ⅲ
C3614X	メディア文化論D	C4704X	演習Ⅳ
C2615X	芸術表現法A	C4801X	卒業論文（6単位）

※「卒業論文」以外はすべて2単位

注1) 科目名の前にあるのはグレードナンバーです（履修要項p.48参照）。

注2) コース共通の学科専攻科目もあります（本冊子p.42参照）。

注3) 芸術・メディアコースで末尾にA～Eとある科目については、Webシラバスで副題や授業内容を確認することができます。

- 専門分野・領域 翻訳、メディア論、日本文化論
- 最近関心のある研究テーマ フランス文学における日本文化論
- 主たる担当科目
映像文化論、メディア文化論、芸術表現法、フランス語セミナー など



現代日本文学（沼正三、大江健三郎、村上龍、辻仁成、リービ英雄、高橋源一郎）の翻訳家として活躍しています。翻訳を始めたきっかけは「京都学派」の研究のために留学生の形で日本にきたとき、西田幾多郎の論文のフランス語訳をしたことでした。

翻訳活動と並行して、翻訳した作家をめぐる研究をしています。『家畜人ヤプー』のフランス語翻訳者として、西洋で知られていない資料を用いて、『家畜人ヤプー』の作者の実像、小説の出版のきっかけ、日本文学界での受け入れや出版経緯、小説の意図や内容について研究を続けています。またフランスにおける日本のイメージ、日本におけるフランスのイメージから生まれる交錯、その現象をいろいろな面から研究しています。特に、フランス文学における日本文化論の形成について研究を続けています。

<論文>

「欧米社会におけるCMの表現様式の変化—ポストモダンの視点から—」、ミネルヴァ書房、2009年

Nishida contre Numa: Le Japon et les démons de la modernité(1/4) L'inégalité des races、国際文化研究(13号)、2009年

Nishida contre Numa: Le Japon et les démons de la modernité (2/4) Yapou bétail humain, une fiction grinçante、国際文化研究(14号)、2010年

Nishida contre Numa :Le Japon et les démons de la modernité (3/4) L'invention d'un philosophe、国際文化研究(16号)、2012年

Etre ou ne pas être Numa Shôzô ? - Mishima Yukio, Kurata Takuji, Amano Tetsuo 『国際社会文化研究所紀要14号』、2012年

Le récit par Nicolas Bouvier du voyage depuis la Suisse jusqu'au Japon à travers ses articles et photographies parus dans des revues japonaises (1955-56) 『国際文化研究』(19号)、2014年

Anatomie du tomason, observation urbaine et état de conscience modifiée, revue<<Tranes>>, numéro 6, éditions Dunod, 2019, p 115-119.

<翻訳>

Nishida Kitaro, *Logique du lieu et vision religieuse du monde*, éditions Osiris, France, 1999

Murakami Ryu, *Lignes*, éditions Philippe Picquier, France, 2000

Murakami Ryu, *Parasites*, éditions Philippe Picquier, France, 2002

Murakami Ryu, *Ecstasy*, éditions Philippe Picquier, France, 2003

Murakami Ryu, *Melancholia*, éditions Philippe Picquier, France, 2003

Tsuji Hitonari, *Nouvelles*, in magazine Je Bouquine, éditions Bayard Presse, France, 2003

Oé Kenzaburo, *Les ambiguïtés de la nostalgie in Nostalgie et autres labyrinthes*, editions Cecile Default, France, 2005

Numa Shozo, *Yapou, bétail humain* (volume 1), éditions du Rocher, Collection Désordres, Laurence Viallet, France, 2005

Murakami Ryu, *Topaze, et autres nouvelles*, éditions Inventaire-Invention, France, 2005

Numa Shozo, *Yapou, bétail humain* (volume 2), éditions du Rocher, Collection Désordres, Laurence Viallet, France, 2006

Numa Shozo, *Yapou, bétail humain* (volume 3), éditions du Rocher, Collection Désordres, Laurence Viallet, France, 2007

Murakami Ryu, *Love & Pop*, éditions Philippe Picquier, 2009

Hideo Levy, *Stars & Stripes*, Japanese Literature Publishing Project (JLPP), Tokyo, 2009, (à paraître).

Yukiko Motoya, *Désastre*, . édité par l'Association des dramaturges japonais, Tokyo, 2010.

Murakami Ryu, *La grande anthologie des chansons populaires de l'ère Showa*, éditions Philippe Picquier, 2011

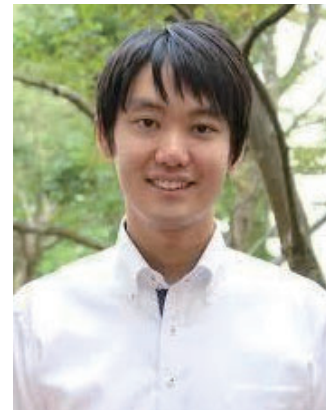
Takahashi Genichiro, *La centrale en chaleur*, éditions Books, 2013.

Maekawa Yutaka, *Creepy*, éditions d'Est en Ouest, 2017.

- 専門分野・領域 比較文学、日本近代文学
- 最近関心のある研究テーマ
芥川龍之介、不思議の国のアリス、英米文学
- 主たる担当科目

物語と文学、世界と日本の文学、芸術表現法など

文学の研究をしながら、小説家として作品も発表しています。研究では、芥川龍之介を中心に文豪たちがどのような作品を読み、自分たちの文学を造り上げていったのかに興味を持っています。また、世界の中でどのような日本文学が読まれているのか、あるいはどのような文学が世界各国で生まれているのかにも関心があります。一方で、自身の創作活動を通して、文学の最前線で活躍する方々と接する機会も多く、自身の経験も含めてできる限り学生にお伝えしたいと思っています。



● 主な著書・論文

- 『ペンギン・ブックスが選んだ日本の名短篇 2 9』（共著、ジェイ・ルービン編、村上春樹序文、新潮社、2019）
『芥川龍之介選 英米怪異・幻想譚』（柴田元幸氏との共編訳、岩波書店、2018）
『文字の消息』（書肆侃々房、2018）
『芥川龍之介ハンドブック』（共著、鼎書房、2015）
『芥川龍之介と切支丹物』（共著、翰林書房、2014）
『フラミンゴの村』（第35回すばる文学賞受賞作、集英社、2012）
「英文との対照から見た芥川龍之介の文体」（『国語国文』第85巻6号、2016）
「江戸東京博物館蔵 芥川龍之介関係資料関連資料解題（一）——「馬の脚」自筆原稿」（『芥川龍之介研究』第10号、2016）
「カリフォルニア大学バークレー校C. V. スター東アジア図書館所蔵・芥川龍之介「母」原稿について」（『別府大学国語国文学』第57号、2015）
「芥川龍之介と卒業論文'Young Morris'」（『京都大学国文学論叢』第34号、2015）など



● ゼミや講義で扱うテーマの一例

- 芥川龍之介作品とその材源比較
（「藪の中」とA・ビアス「月明かりの道」など）
- 芥川賞の成り立ちおよび芥川賞予想
- 吉本ばななと各国語訳
- カズオ・イシグロの文学作品
- 『源氏物語』現代訳比較（原文／谷崎潤一郎訳／与謝野晶子訳／角田光代訳）
- 『源氏物語』英語訳とその日本語訳の比較
（A・ウェイリー訳／毬矢まりえ・森山恵訳〔ウェイリー版の邦訳〕）
- 芥川賞の成り立ちおよび芥川賞予想
- 『不思議の国のアリス』の各国訳
- 世界文学と村上春樹 ・文芸創作 など

- 専門分野・領域 演劇論、伝統芸能論、映画実践と理論
- 最近関心のある研究テーマ
 - ・ 翻訳
- 主たる担当科目
 - 比較演劇入門、芸術表現法、映像文化論、伝統芸能論、欧米の演劇 など



アメリカ・ニューヨーク州生まれ。PhD. (ニューヨーク大学)。研究分野は演劇。狂言、ベケットからインターカルチャー演劇まで幅広い。
 1981年「能法劇団」を茂山あきら氏と結成。演出家でもあり、自ら舞台に立つことも。1984年には日本の伝統芸能のワークショップ「TTT(トラディショナル・シアター・トレーニング)」を創設するなど多彩な活動を行なっている。
 New York University, Franklin & Marshall College, Portland State Universityの講師 (演技術、演劇論)。

● 主な論文

- ・ 「狂言の笑いをどう英訳するかー翻訳喜劇のさまざまな戦略」
 (How can one translate kyogen's comedy into English: Various strategies for translating comedy) 佐々木・松居編『芸術・メディアのカルチュラル・スタディーズ』(ミネルヴァ書房, 2009) 所収。
- ・ 「猿から尼まで 狂言役者の修業」
 (From Monkey to Nun : Kyogen Actors' Roles of Passage) Nichibunken Forum 110 (2002).
- ・ "Noh-kyogen influence, dramaturgy and mise-en-scene in the short plays of Samuel Beckett" in Kevin Wetmore, ed. *Resonances and Influences, Irish and Japanese Theatre*. Mellen Press : 69-117 (2014).
- ・ 編集担当 『A history of Japanese theatre』 (Cambridge,2016)
- ・ "Japanese traditional theatre," 『Routledge Handbook to Asian Theatre』, Siyuan Liu, ed. (Routledge, 2016)



● 卒業論文の例

(「創作(シナリオを書き下ろして、映画を作る) + 報告書」という卒論も認めています)

- ① シェイクスピアの結婚観～彼の描く結婚とは何か
- ② 日本の国立劇場の成立と現状 ～国が芸術を支えるにあたっての問題点
- ③ 日本のコメディドラマとアメリカのコメディドラマの違い～『フレンズ』と『やっぱり猫が好き』を通して
- ④ 東京ディズニーランドの演出力
- ⑤ ティム・バートン監督/制作『ティム・バートンのコープスブライド』～二つのピアノ演奏シーンの比較分析
- ⑥ 大統領のイメージが持つ矛盾を映画「エアフォース・ワン」ではどのように解消しているか



国際文化学部創立十周年記念事業で上演された新作狂言『ジャパネキンス』に主演するサルズ教授(中央)

- **専門分野・領域** カルチュラル・スタディーズ、ジェンダー論、マンガ研究
- **最近関心のある研究テーマ**
 - ・バレーマンガにおける身体表現



- **主たる担当科目**

ジェンダー論、映像文化入門、大衆文化入門、映像文化論、大衆文化論 など

- 1972年 ベルギー生まれ
- 1995年 ルーヴァンカトリック大学日本学科修士課程修了
- 1997年 ルーヴァンカトリック大学社会・文化人類学科修士課程修了
- 2001年 大阪大学大学院人間科学研究科環境社会学修士課程修了
- 2007年 大阪大学人間科学博士課程終了
- 2002年 兵庫医科大学医学部非常勤講師
- 2004年 大阪大学21世紀COEプロジェクト研究員
- 2006年 京都精華大学マンガ学部助教授
- 2007年 京都精華大学マンガ学部准教授
- 2011年 京都精華大学国際マンガ研究センター PD 研究員
- 2012年 龍谷大学国際文化学部、関西学院大学国際学他非常勤講師
- 2014年 龍谷大学国際文化学部にて専任講師として就任
- 2017年 龍谷大学国際学部准教授として就任



- **研究テーマ**

社会学、人類学、ジェンダー論、マンガ比較文化論など

- **所属学会**

日本マンガ学会、記号学会、日本ジェンダー学会、日本女性学会、日本アニメーション学会

- **最近の業績**

「第7章 アメリカのコミック・アーティストとマンガ——コリーン・ドランの作品考察」、『女性マンガ研究——欧米・日本・アジアをつなぐMANGA』大城房美編、青弓者（2015年6月21日発行）pp. 153 - 167.

“Negotiating religious and fan identities: “Boys’ Love” and fujoshi guilt”. In: *The End of Cool Japan——Ethical, legal, and cultural challenges to Japanese popular culture.* Mark McLelland ed. 2016. Routledge, London, pp. 184 - 195. :

“Queering Black Jack: A look at how the manga industry adapts to changing reader demographics”. In: *Orientalisk Studier Nr 147, Proceedings from the 2016 NAJAKS Conference at Stockholm University.* Stockholm University, pp. 111 - 140.

Bauwens-Sugimoto, Jessica. 2018. "The Monstrous Feminine in the Work of Sakamoto Shin'ichi". In: 『国際文化研究22号』, 龍谷大学, pp. 3 - 16.

杉本バウエンス・ジェシカ、石川優、西原麻里. 2017年「平成29年度メディア芸術マッピング（マンガ領域）作業報告書」、文化庁.

Bauwens-Sugimoto, Jessica. 2019. “Chapter 13: Yoko Tsuno and Franco-Belgian Girl Readers of *Bande Dessinée*”. In: Fusami Ogi, Rebecca Suter, Kazumi Nagaike, John A. Lent (eds.) *Women’s Manga in Asia and Beyond: Using Different Culture and Identities.* Palgrave Macmillan, pp. 181 - 198.

- **指導した卒業論文の例**

「現代オタク文化論～アニメの可能性を『おおかみこども雨と雪』から読み解く～」

「萩尾望都の作品背景について」

「コンテンツツーリズム —— アニメツーリズムを活用した地域活性——」

「マンガ・アニメ・ゲームにおけるイケメンとその発展、メディア戦略」

「ホラーエンターテインメントにおけるジェンダー」

- 専門分野・領域 Comparative Popular Culture
Japanese Fashion History
1960s America
Extensive Reading in EFL
- 最近関心のある研究テーマ
The adoption of western clothing by Japanese women, 1930-55;
American popular music in post-war Japan
- 主たる担当科目
English Communication、Comparative Culture、大衆文化論 など



● 自己紹介と専門分野

Michael Furmanovsky was born in Zimbabwe and grew up in London, UK. He received his BA in American Studies (University of Warwick, U.K) and his M.A and C.Phil in American history (UCLA, U.S.A). He has lived and worked in five continents the longest of which is Japan (23 years). Furmanovsky's educational background is in modern American history with a focus on youth movements and western popular culture. His English seminar looks at how American movies have shaped popular culture, lifestyles, values and attitudes towards race. His English-language obeibunka class uses movie previews and commercials as a learning tool. Since 2005 he has also been working in the field of Japanese popular culture and has conducted interviews with several of the seminal Japanese pop culture figures of the Showa 30s. These interviews are the basis for five articles on the early history of western pop music in Japan. His most recent article is on the development of post-war women's fashion. In addition to his teaching and research, Furmanovsky is an active member of a small NGO called Teachers Helping Teachers and he regularly participates in volunteer teaching workshops in Vietnam and the Philippines.

● 主な研究業績

- ◆ “American Country Music in Post-War Japan” *Popular Music and Society* Vol. 31:3 July 2008
- ◆ “Rokabiri”, Student Radicalism and the Japanization of American Pop Culture.” *Intercultural Studies* No.12, 2008
- ◆ Outselling the Beatles: Assessing the Influence and Legacy of the Ventures on Japanese Musicians and Popular Music in the 1960s. *Intercultural Studies* No.14, 2010, pp. 51-64
 - A Complex Fit: The Remaking of Japanese Femininity and Fashion, 1945-65. *Intercultural Studies* No.16, 2012
 - Ginza Shopping: Evaluating evidence for middle-class women's adoption of a modern yōfuku-based nijū seikatsu identity in mid-1930s Japan”. *Intercultural Studies* No 19, 2015
 - Electrifying the Japanese Teenager Across Generations: The Role of the Electric Guitar in Japan's Popular Culture” in *Introducing Japanese Popular Culture* 2018 (Routledge)

● 卒論テーマ

Movies and Visual Media That Shaped American Culture



Teachers Helping Teachers(NPO) in Manila



Magazine Article on Pop Culture



Japanese Fashion History

● **専門分野・領域** 国際文化学、比較文化史

● **最近関心のある研究テーマ**

- ・ 南方熊楠を中心とする比較文化論
- ・ 日本を中心とする比較文化史

● **主たる担当科目**

比較文化入門、日本の思想、大衆文化論 など



マンガ、映画、韓国、広告、博物学、南方熊楠、ジャポニスム。比較文化の対象として私が関心を持っている分野はたくさんあります。それらの分析の中で、重視していることの 하나가「イメージ」です。人間の文化はさまざまな「イメージ」の複合からなっていて、それらはすべて連関しています。時代や分野を超えて、「イメージ」の広がりや連関関係を分析をすることは、思いもかけない発見へと私たちを導いていくと考えています。

● **主な著書・論文**

松居竜五『南方熊楠 複眼の学問構想』、慶應義塾大学出版会、2016年、全618頁。

松居竜五・田村義也『南方熊楠大事典』、勉誠出版、2012年、全808頁。

松居竜五編『南方熊楠の謎 鶴見和子との対話』、藤原出版、2015年、全281頁。

松居竜五「民族移動による他界観念の発生に関する議論——ハーバート・スペンサーから南方熊楠、折口信夫へ」、『現代思想』2014年5月臨時増刊号、pp.250-259

松居竜五「コナン・ドイルとボーア戦争」、『KOTOBA』第36号、2019年、pp.108-113



● **卒業論文の例**

- ① 90年代以降の現代フランス人の日本観—日本マンガの影響を中心として
- ② マンガから見る「女らしさ」
- ③ ミュージカルにおける日米比較
- ④ 在日韓国・朝鮮人の今日
- ⑤ 日本と韓国の若者言葉
- ⑥ 韓国のパッケージツアーに見る日本のイメージ
- ⑦ 映画の中に生きたアジア系アメリカ人
- ⑧ 世界における手話とろう文化



● **専門分野・領域** メディア社会論、ジャーナリズム論、情報文化論

● **最近関心のある研究テーマ**

- ・多文化社会における公共放送の役割
- ・台湾メディアにおける「日本」
- ・社会的少数者のためのジャーナリズム教育

● **主たる担当科目**

メディア文化入門、メディア文化論 など



大学卒業 → 放送局勤務 → 大学院修士課程 → 政府系金融機関勤務 → 大学院博士課程 → 大学教員という遍歴で現在に至ります。放送局では地方支局に配属され地域密着型の仕事、政府系金融機関では政府開発援助（円借款）に関わるグローバルな仕事をしてきました。

現在は大学教員である期間の方が長くなり、これまでの経験も踏まえて、メディアと社会およびメディアと文化の複雑な関係を、人文・社会科学を横断するアプローチから研究しています。特に先住民やエスニック・マイノリティなどの社会的に弱い立場にある者が、独自のラジオやテレビを持ったときの影響や効果を定量的に表現し、メディア政策や文化政策に反映させていくことを目標としています。

● **最近の主要論文**

「台湾メディアと日本：台湾TVBS関係者の聞き取り調査から」『社会科学研究年報』第48号（2018）

「テレビ放送の『多文化仕様化』に関する国際比較：多文化共生社会の費用計算に向けた試論」『龍谷大学国際社会文化研究所紀要』、第17号（2015）

「企業の経済活動と国家の干渉：思考モデルとしての情報文化空間の可能性」『情報文化学会誌』、第21巻第1号（2014）

「ハクティビズムと情報文化空間の公益性に関する考察：ミシェル・ド・セルトーの『戦術』概念の観展から」『情報文化学会誌』、第20巻第2号（2013）

「情報文化の空間構造に関する試論：「個」に焦点化した空間モデルを求めて」『情報文化学会誌』、第19巻第2号（2012）

「情報文化の主体を眺める視座：オルタナティブとアノニマス」『情報文化学会誌』、第17巻第2号（2010）

● **卒業論文・卒業制作の例**

以下は一例です。卒業論文だけでなく、映像や特集記事などの卒業制作も可能です。

- ・報道に見る日韓関係の批判的言説分析
- ・テレビにおけるスポーツ中継の研究 ～データ放送の現状と提案～
- ・碁盤の目の街を巡る～私的札幌と京都論～
- ・夢を叶えた2人の若者 ～看護師と美容師に見る「働く」とは～（映像ドキュメンタリー作品）
- ・障害者をめぐる聖化と消費～カルチュラル・スタディーズに基づいて
～（2014年度最優秀卒業論文賞第二席受賞）
- ・在日朝鮮人の名前について考える
～その背景と歴史～





その他（コース選択に関連する事項）

- コース共通の専攻科目について
- 演習とコース選択について
- 国際文化実践プログラムについて
- 想定する進路について

コース共通の専攻科目について

国際文化学科での学びの基幹となる『学科専攻科目』に関しては、「46単位のうち、少なくとも34単位は所属コース提供科目から履修する」というルールがあります。裏返せばこのルールは、「残りの12単位分は他コースが提供する専攻科目、またはコース共通で提供される専攻科目でもよい」ことを意味します。

コース共通の専攻科目は以下59科目です。開講時期や授業内容等の詳細は、履修要項やWebシラバスなどで確認して下さい。

(外国語)		(留学生対象)
English Workshop A	コリア語セミナー I	日本語セミナー E
English Workshop B	コリア語セミナー II	日本語セミナー F
English Workshop C	コリア語セミナー III	日本語セミナー G
English Workshop D	実践コリア語 A	日本語セミナー H
上級英語A	実践コリア語 B	
上級英語B	実践コリア語 C	
Advanced English A	実践コリア語 D	
Advanced English B	ペルシア語セミナー I A、I B	
Advanced English C	ペルシア語セミナー II A、II B	
Advanced English D	トルコ語セミナー I	
	トルコ語セミナー II	
フランス語セミナー I	アラビア語セミナー I	
フランス語セミナー II	アラビア語セミナー II	
フランス語セミナー III	スペイン語セミナー I	
実践フランス語A	スペイン語セミナー II	
実践フランス語B	ポルトガル語セミナー I	
実践フランス語C	ポルトガル語セミナー II	
実践フランス語D	ポルトガル語セミナー III	
中国語セミナー I	ポルトガル語セミナー IV	
中国語セミナー II	ドイツ語セミナー I	
中国語セミナー III	ドイツ語セミナー II	
実践中国語A	ロシア語セミナー I	
実践中国語B	ロシア語セミナー II	
実践中国語C	ロシア語セミナー III	
実践中国語D	ロシア語セミナー IV	
		(その他)
		グローバル時代のキャリア設計
		パークレー講義
		パークレーボランティア
		SNSを活用した異文化交流実践

演習とコース選択について

演習は「ゼミ（ゼミナールの略称）」とも呼ばれます。広辞苑によればゼミナール（Seminar）とは、「大学の教育方法の一つ。教員の指導の下に少数の学生が集まって、特定の分野・テーマについて文献講読や発表・討論などを行うもの」と定義されています。

国際文化学科では、1年次に必修の「基礎演習A」および「基礎演習B」のほか、3年次から履修できる「演習Ⅰ」～「演習Ⅳ」があります。演習Ⅰ～Ⅳ（各2単位）および演習に付随する「卒業論文」（6単位）は必修ではありませんが、演習Ⅰは全員が必ず履修登録します。

演習Ⅰの選択は2年次後期に行われます。また、「卒業論文」は大学での学びの集大成であり、演習担当教員の指導を受けながら、演習Ⅰ～Ⅳの履修期間（2年間）を通じて完成を目指します（演習によっては卒業制作も可）。

基礎演習A/Bでは、学籍番号によって受講クラスが割り振られますが、演習Ⅰ～Ⅳでは、所属するコースによって受講できる演習が限定されます。原則として、所属コース教員の演習を選択することになります（ただし受講人数の関係上、希望する演習を必ず履修できるとは限りません。詳細は掲示板等でお知らせします）。なお、教員によっては、他コースの学生でも例外的に受講を認めている場合があります、その場合は当該演習を履修することが可能です。

それゆえコース選択時には演習Ⅰ～Ⅳの選択、すなわち、「どの分野・テーマで専門性を身につけたいか」、「(大学生活の総仕上げである)卒業論文/卒業制作を通じて何を究めたいか」、「どの教員から指導を受けたいか」といったことも視野に入れて考えるようにしましょう。



ゼミの授業風景

国際文化実践について

「世界と日本をつなぐ人材」を目指す上で、言語・歴史・宗教・社会体制などのちがいに起因する文化間の壁を乗り越え、課題を解決するための実践的な学びの経験が必要かつ重要になります。そのため、国際文化学科では、「世界と日本をつなぐ人材」に求められる素養を、様々な実践の機会を通じて体得できるよう、必修科目として「国際文化実践プログラム」を導入しています。

国際文化実践プログラムは、事前学習に充てられる「国際文化実践Ⅰ」と、学生自身が選択する「国際文化実践Ⅱ」（実践学習）の二段階で構成されています。国際文化実践では、学生自らが興味や関心にもとづき課題を設定し、他の受講者とも協働しながら、計画→実行→成果発表という一連の流れに主体的に取り組むことが大きな特色となっています。

2年次前期に開講される「国際文化実践Ⅰ」は、所属コースごとに受講します。各コース2クラスが設置される予定であり、どちらのクラスになるかは事前に指定されます（詳細は掲示板等で発表します）。

国際文化実践Ⅰの授業では、意義や手続きの流れ、実践に際して必要となる手法（フィールドワークやインタビューなど）に関する講義がおこなわれます。また、授業の一環として、コースの特色を生かした京都周辺または近隣圏でのミニ・フィールドワークも予定されています。なお、2年次前期に海外留学する場合は、メール等を通じて担当クラス教員から指導・助言（遠隔地指導）を受けます。

併せて学生は、「国際文化実践Ⅱ」で取り組む実践的な経験の対象や方法を構想し、教員の指導や助言を受けながら、各自が取り組む実践学習の計画書を作成し、担当教員から了承を得ることが求められます。

「国際文化実践Ⅱ」については、所属コースによる受講制限はありません。学生は所属コースにかかわらず、興味と関心にもとづき任意のプログラム（詳細は次ページ参照）を選択することができます。



留学・国内外での国際文化に関わる実践的学修を通して、 日本を知り、世界を学ぶ

必修科目「国際文化実践Ⅰ・Ⅱ」

「国際文化実践Ⅰ」では、実践の意義や手順、フィールドワーク・インタビューなどの方法について学び、自らの課題を計画します。
また、「国際文化実践Ⅱ」では、自分の関心にあったプログラムを選択し、留学・国内外での体験実習や調査に取り組みます。

A. 長期留学型

留学先の地域の文化を対象にフィールドワークし、同時期に他の地域や大学に留学するプログラム
選択学生とともに報告や意見交換することが課題です。

B. 短期語学研修型

専任教員の引率で海外の語学研修に参加し、滞在先でのホームステイやイベントをとおして、さまざま
な文化を体験します。

プログラム例 中国語学文化研修／韓国語学文化研修／オーストラリア語学文化研修／
アメリカ語学文化研修 ほか



ⅢB オーストラリア語学文化研修

C. 短期国外文化研修型

専任教員がオリジナルな海外の文化研修を企画し、教員の専門分野に関わる調査研究の現場を案内
します。

プログラム例 イギリス文化研修／中国歴史文化研修／ギリシャ・トルコ文化研修／
ヨーロッパ文化研修／イタリア文化研修／ペルシア絨毯研修



ⅢC ヨーロッパ文化研修

D. 短期国内文化研修型

専任教員が独自にプログラムを企画し、国内各地での調査や文化を体験学習します。

プログラム例 京都学実践フィールドワーク(祇園祭)／古都(京都・奈良)の寺院仏閣探訪／
長崎・天草潜伏キリシタン研修／人類学フィールド実習(京都の人と自然)／
マイノリティから見た日本社会／瀬戸内国際芸術祭／本願寺での観光案内 ほか

E. 集中講義型

夏季休暇期間中に、学内や日本の各地で、教員の研究分野にそって企画した調査や文化体験を実習
します。

プログラム例 漫画をつくらう／ゲームを作らう／屋久島環境文化研修 ほか



ⅢC ペルシア絨毯研修

F. インターンシップ型

企業やNGOなどでインターンシップに参加をしつつ、自ら設定した課題を調査します。

受入れ団体例 多文化共生センターきょうと／湖南省国際協会／京都国際交流協会／
認定NPO法人アクセス共生社会をめざす地球市民の会／京都まちなか交通／観光案内所 ほか

G. 自己応募型

学生が自分で探してきた実習やスタディツアーやボランティア活動、また、語学プログラムなどに参
加して、担当教員のアドバイスのもとに、自分で計画した調査を現地で実行します。

プログラム例 国際文化創成コーディネーター短期集中セミナー／神戸ファッション美術館服飾文化セミナー／
NICE国際ボランティア(カンボジア) ほか



ⅢD 京都学実践フィールドワーク

国際ツーリズムプログラム 【2019年度入学生以降対象】

2019年度入学生よりはじまる、国際ツーリズムプログラム(International Tourism Program)は、旅行や観光にかかわる幅広い分野の専門知識を実践的に学ぶことができる新カリキュラムです。2年次より『多文化共生』『世界と日本』『芸術・メディア』いずれかのコースに所属した上で、コース横断型のプログラムとして履修可能です。



1 実践・インターンシップ科目

- 古都(京都・奈良)探訪や祇園祭フィールドワークなど、旅行や観光に関連した実践的な学びを行うプロジェクトを選択します。
- 旅行・観光系業界でのインターンシップ(コンソーシアム京都または協定型)を選択します。

2 講義科目

「観光学入門」、「京都観光学」、「観光文化論」など11科目に加え、観光外国語科目として中国語、英語、ロシア語、フランス語の4か国語、さらに3・4年次における国家試験受験を想定した旅行業務取扱管理者資格講座も選択可能です。

想定する進路について

旧国際文化学部卒の多くは民間企業に就職しています。そうした実績と各コースの設置・教育理念を踏まえた場合、想定する進路（国際文化学科で学修したことを比較的活かしやすいと考えられる業界・職種・職業）としては、例えば次のようなものが挙げられます。

グローバル化や国内の少子化・高齢化を背景に、日本では外国から人材を受け入れる傾向が強まっています。このような時代、異なる文化間に生じる課題を解決できるファシリテーター（促進者）として、「世界と日本をつなぐ人材」としての素養を身につけた国際文化学科生が活躍できる領域は、今後、国内外に大きく広がっていくと予想されます。

多文化共生コース

一般企業・団体等のうち、特に顧客や構成員が多様な文化的背景を持つ企業（外資系企業、海外に展開する日本企業など）、地方自治体の多文化共生施策担当者（外国人住民の支援に関する業務）、国際協力や多文化共生に関する業務を行うNGO・NPO（非政府・非営利組織）、英語科教員（中学・高校）、海外および国内における日本語教員など。

世界と日本コース

一般企業・団体等のうち、特に業務を通じて世界に日本文化を発信するような業界（旅行会社を含む観光業、運輸業など）、日本企業の海外支社・支店等での勤務（特にイスラーム圏、仏教系諸国など）、特定地域で活動するNGO・NPO（非政府・非営利組織）、英語科教員（中学・高校）、海外および国内における日本語教員、通訳・翻訳者、博物館学芸員など。

芸術・メディアコース

一般企業・団体等のうち、特に業務を通じて芸術・文化に携わる業界（マスメディア、コンテンツ関連産業など）、地方自治体の文化振興施策担当者、一般企業のメセナ活動（企業がおこなう社会貢献活動）担当者、芸術・文化関連の活動をおこなうNGO・NPO（非政府・非営利組織）、英語科教員（中学・高校）、海外および国内における日本語教員、博物館学芸員など。

勿論、想定される進路は上記に限られません。コースに関係なく、浄土真宗本願寺派開教使（諸外国における真宗伝道）や大学院進学なども考えられます。

卒業後の進路を早目に考えて損はありません。龍谷大学のキャリアセンターを積極的に利用しましょう。各種セミナーや個別のカウンセリングがおこなわれるほか、職業や業界・企業に関する豊富な資料を常時閲覧可能です。また、資格試験対策講座なども実施しています。「まだ早い」とは決して思わず、1年次から積極的に利用することを強く推奨します。



龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY